

Rotary 鈴鹿西ロータリークラブ会報

所属： 国際ロータリー第 2630 地区 鈴鹿・亀山グループ；

創立： 1985 年 3 月 27 日； RI 認証： 1985 年 6 月 3 日(No. 1665)；

事務所： 〒513-0802 三重県鈴鹿市飯野寺家町 816 鈴鹿商工会議所 3F；

電話： 059-383-7077； FAX： 059-383-0501；

E-Mail： info@rotary-suzuka-west.org； <https://www.rotary-suzuka-west.org/>

例会場： 鈴鹿商工会議所 別館 1 F 会議室； 例会日： 火曜日； 例会食事： 12： 00； 例会： 12： 30-13： 30；



持続可能なインパクトを生み出そう

2026 年 9 月 1 日(火)第 1840 回例会

例会場： 鈴鹿商工会議所別館 1 F 会議室

開始： 12： 30 終了： 13： 30

例会進行： 野間芳実 副 S A A

点鐘： 会長 柴田友美

ソング： 君が代 奉仕の理想

ソングリーダー： 服部高宣 ソングリーダー



ゲスト： ローター米山記念奨学生 ティルワ ビカス様

会長挨拶

柴田友美 会長



9 月 1 日今日は何の日・・・二百十日「雑節（ザツセツ）」だそうです。

「二百十日（にひゃくとおか）」は、「雑節」の一つで、二十四節気「立春」（2 月 4 日頃）を起算日として 210 日目にあたります。その日付は年により変化し、近年では 8 月 31 日または 9 月 1 日となり、「立春」の変動により 9 月 2 日が「二百十日」となる場合もあるそうです。

「二百十日」の頃は、稲の開花期にあたる上に、台風の襲来する季節とも一致します。そのため、昔から農家では、220 日目の雑節「二百二十日（にひゃくはつか）」とともに災難が起こる「厄日（やくび）」として警戒されるようです。

また、今日は防災の日でもあります。1923 年（大正 12 年）9 月 1 日に発生した関東大震災に由来しており、台風シーズンへの備えを新たに
する意味も込められています。

何れにしろ、この時期は台風（豪雨）、内水氾濫が発生しやすいので、これを機会に改めてハザードマップの確認をおこない防災対策をしておきたいと思います。

続いて国際ロータリー世界本部からの文章を紹介します。（改めてロータリーについてです）

「ロータリーは世界で、地域社会でそして自分自身の中で、持続可能な良い変化を生むために、人びとが手を取り合って行動する世界を目指す 120 万人以上のメンバーから成る世界的ネット

ワークです。

人びとが直面する課題を解決するには、熱意とビジョンが必要です。

120 年以上前から、ロータリーは「奉仕」を最優先してきました。ロータリー会員は今日も、奉仕への熱意、そして各自の専門知識と経験を生かして、変化を導いています。識字率の向上から、平和、安全な水、健康に至るまで、私たちは世界をよりよくするために絶えず取り組み、目標を実現するまでコミットメントを貫きます」と書かれていました。

さて、ニュースで知っての通り、ネパールではとんでもない洪水が起きています。

当クラブのツイン（双子）クラブの一つがネパールラリトプールロータリークラブで大切な友人ですので

先ずは急ぎお見舞い状を送りたいと考えています。また、当クラブからの支援については、現地クラブに相談をたく、会員各位のご意見を聞かせていただき、臨時理事会で判断したいと思いますが如何でしょうか？ 個人的には「募金」を募り（会員・企業・市民）現地クラブに届け、カトマンズの病院治療の支援…病院で使用する医療品の購入支援を検討したいと考えます。また、サーキット通りにありますネパールレストランに当クラブの募金箱を設置させていただく（ポスターとパンフレットを置く）ことも考えています。この件は、早めの判断と行動が必要と思います。

最後に本日は野間会員にご同行いただき、末松市長に些少ではありますが、子供事業への寄付金をお届けします。本日も宜しくお願い致します。

9 月度米山記念奨学金贈呈



幹事報告

小林英将 幹事



1. 鈴鹿・亀山グループ各ロータリークラブ例会変更のお知らせ

亀山RC：2026年9月 7日（月）⇒9日

（水）鈴鹿・亀山グループガバナー公式訪問合同例会・IMのため鈴鹿商工会議所4F大ホール

9月14日（月）会場都合のためロータリー事務所

9月21日（月）法定休日

9月28日（月）会場都合のため亀山商工会館三階会議室

鈴鹿RC：2026年9月9日（水）鈴鹿・亀山グループガバナー公式訪問合同例会・IMのため鈴鹿商工会議所 4階大ホール

9月23日（水）特別休会

2. 第4回理事・役員会決議報告

【理事数：8名】

出席：柴田 森(喜) 江藤 沖 伊藤(義)
(5名)

欠席：藤野 小林 伊藤(雅) (3名)

【オブザーバー】出席：服部 (1名)

第1号議案：9月度プログラムの確認および10
月度プログラムについて・・・承認

・10/27日帰り旅行についてはプラン変更
が生じることも可

第2号議案：2026-27年度(第43期)補正予
算案について・・・承認

・新予算案は臨時総会にて会員に説明する

第3号議案：令和8年熊本地震支援金につい
て・・・承認

・次週の例会よりお願いをする。

第4号試案：その他

① 9/9(水)合同例会・IM 受付担当

(名札を事務局で受取り準備)について

・沖会員と江藤会員は担当 IMでのクラブ
報告は柴田が対応する。

・ロータリー旗は会長・幹事懇談会前に鈴鹿
RC係へ渡す 事務局対応

② ハート基金について(¥57,491)・歌
詞布製5曲セットの購入に充てる

③ 地区大会について

・出席の呼びかけをする

・沖会員宅に集合して2台に乗り合い会場に
行く

3. 令和8年熊本地震支援金へのご協力をお願
いいたします。

4. 地区大会の登録料(¥12,000)を本日で
15日(火)例会において集金させていただ
きますので、参加者におかれましてはよろ
しくお願い申し上げます。

臨時総会

会長・幹事・会計

【審議事項】第43期(2026-27年度)収支予
算(案)の件・・・承認

委員会報告

*9月度会員誕生お祝い

服部高宣 親睦・家族委員

服部高宣会員 藤野恵子会員 伊藤義一
会員



*ロータリーの友9月号紹介

江藤隆仁 クラブ広報委員



出席報告

沖 俊成 出席委員長

正会員19名中10名出席 出席率 66.66%

ニコニコボックス報告

服部高宣 親睦・家族委員

敬称略・順不同

柴田友美：今日は岩崎さんよろしくお願いしま

す。国内、海外、そしてネパールで地球温暖化の影響が出ています。心配です。

小林英将: ティルワ・ビカスさんようこそ！江藤会員ロータリーの友紹介楽しみです。

岩崎 透: 雑誌委員会の卓話です。よろしくお願いします。

野間芳実: ティルワ・ビカス君を歓迎して。岩崎会員、本日宜しく申し上げます。

本日のプログラム

「ロータリーの友月間にちなんで」

岩崎 透 クラブ広報委員長



国際ロータリーは、公式機関誌としてロータリー雑誌 The Rotarian を発行しています。

ロータリー会員の規約として、会員はこれを購読する義務があります。

日本のロータリーは RI の認可を得て日本に雑誌委員会を作り、RI の地域機関雑誌として日本の独自色を持たせてロータリーの友として編集発行されています。

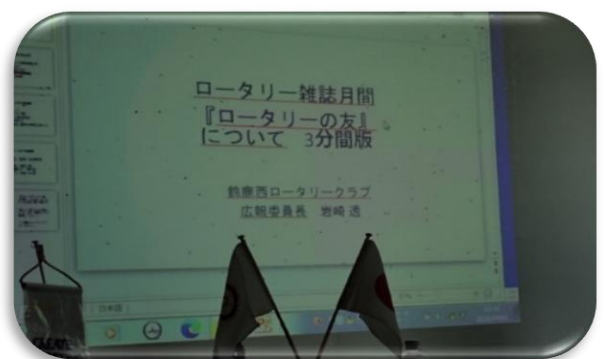
雑誌の内容は、横書きと縦書きに分かれます。横書きは、皆様ご存じのように、RI のその時々ニュース等々、RI 会長の寄稿文、世界のニュース、世界のロータリークラブの動静、等々が掲載されています。読者としては、当然ながら世界への視野が自然と広がるように思われます。日本

版としては、これらに加えて、日本のロータリー活動について詳しく動向を記しています。私たちはこの雑誌の記事から、色々と勉強をさせていただいています。RI 会長の記事をしっかりと読んでその考えるところを勉強しています。又同じような行動例から自然と一体感も感じられ、寂しさからの解放感にもなりました。

横書きにはロータリーの情動的なものが主となっています。ここから、ロータリーの社会奉仕とか職業奉仕の意味が自然に理解できるようになると思います。又意味を理解する事で、個人の素養の向上に繋がると思われます。そういう点からもこの雑誌は、世界日本のロータリークラブの架け橋的存在であると思われます。

最後に皆様ご存じの縦書きは、日本の各地の文化、歴史の紹介、話題、人物にスポットを当て深堀します。又会員専用の俳壇欄、広場、卓話の泉、とそれぞれの地区の文化の紹介、話題、さらに相談室もあって会員の身近にせまっています。大切にしたいと思います。

このように大切に思っているのですが、つい積読になっているのが現状です。私達広報委員が、皆さんにわざわざ紹介させていただく所以でございます。



鈴鹿市の子ども事業への寄附金贈呈



2025-26 年度地区奨学金補助金奨学生 宮里倫史様 8 月度近況報告

大変お世話になっております。2026 年 8 月の活動についてご報告させていただきます。今月は夏季休暇で、月末に変則的に参加させていただいた小規模なマスタークラス以外は、故障した手とその状態を見ながら少しずつ練習を再開させていきました。

先月ご報告した手の故障は、未だ少し違和感はあるものの、ほぼ完治させることができました。10 月に行われるジョージアのトビリシでの国際コンクールに向けての準備は、課題の曲数も大きく、また各曲さまざまに難しく、なかなか困難なものですが、このほぼ最後といえる機会をこれ以上無駄にしないよう悔いなく引き続き頑張ります。

来月からは大学の最後の学期が始まります。コンクールへの準備と並行し、このありがたい環境から最後までできる限り多くのものを体験し学んで帰ることができるよう精進いたします。

会報発行担当：伊藤義一